

第2学年 保健体育科学習指導案

1 単元名

「傷害の防止」

2 単元の目標

- (1) 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因，傷害の防止，応急手当の意義と実際について，理解することができるようにするとともに，心肺蘇生法などの技能を身につけることができるようにする。(知識・技能)
- (2) 傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し，自他の危険の予測を基に危険を回避したり，傷害の悪化を防止したりする方法を考え，適切な方法を選択しそれらを伝え合うことができるようにする。(思考・判断・表現)
- (3) 傷害の防止について，自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにするとともに，自らの生活に生かすことができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元構想の意図

近年，異常気象による猛暑やゲリラ豪雨，東日本大震災の余震とみられる大規模な地震などの自然災害や交通事故など，自分の身に降りかかってくる様々な脅威には危機的な状況がある。生徒はそういった危険から身を守ることは大切だと分かっているものの，実際の行動がつかない。本単元では，交通事故や自然災害などによる傷害は人的要因と環境要因が相互に関連して発生することを理解させるとともに，交通事故などによる傷害を防止するためには，危険を予測しそれぞれの要因に対して対策を行うことが必要である。具体的な事例を適宜取り上げ，生徒自身の実生活と照らし合わせ，行動の想起・ふり返りを行うことで自分自身の課題として捉えさせる。また，視覚教材を活用し危険予測の場면을提示することで思考する意欲を高め，主体的な課題解決へつなぎたい。さらなる仲間と考えを交流することで自分では気づけなかった視点にも触れさせ，その原因や具体的な対策に迫らせ，実際の行動に結びつけていきたい。

4 単元計画（総時数8時間）

時	場面	学習活動（夢中に取り組んでいる姿）	資質・能力
1	見通す 対話する	交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因について話し合う。	人的要因や環境要因が関わって発生することを具体的に説明している。
2	考える 対話する	傷害の防止に関わる事柄や情報を整理して，未然防止策を話し合い，考える。	人的要因や環境要因が関わって発生することを具体的に説明している。
3 (本時)	考える 対話する	交通事故などによる傷害を防止するために，危険を予測してそれぞれの要因に対して適切な対策を考える。	自分達の生活と関連付け，具体的な課題や対策について説明している。
4	考える 対話する	自然災害発生時に，傷害を引き起こす様々な危険を予測し回避する方法を選択する。	自然災害発生による傷害と二次災害による傷害があることを理解できる。
5	考える 対話する	自然災害への備えと傷害の防止のために必要なことを検討し，発表する。	自他の安全を確保するために冷静かつ迅速な行動について記述説明ができる。
6	習得する	包帯法や止血法に実習を行い，知己式や技能をワークシートにまとめる。	包帯法や止血法を理解し，実践できる。
7	習得する	心肺蘇生法について理解し，胸骨圧迫やAED使用などの心肺蘇生法ができる。	心肺蘇生法について理解し，胸骨圧迫やAED使用など，実践できる。
8	ふり返る	傷害の発生した場面やケガの状況に適した応急手当の方法や手順，危険予測や回避する方法を考え，グループで話し合う。	応急手当の方法や手順，危険予測や回避する方法をその場面に即して改善点や根拠をあげて説明する。

単元を通して育成したい子どもの姿

交通事故や自然災害などによる傷害の防止について，実生活と照らし合わせて色々な角度からその要因と改善策を探り，実践する姿

5 本時のねらい

様々な状況を的確に捉え、危険を予測することにより、危険を回避できる方法を考えることができる。

6 学習過程

	学習活動・内容 (T主な発問・C生徒の反応)	時間	○指導上の留意点 ◎研究主題に迫る手立て ◇評価
課題設定	1 前時までの学習をふり返る。 (1) 写真から分かることを発表させる。 (2) 本時のめあてをつかむ。 交通事故を防ぐためには、どんな対策が必要だろうか。	10	○人的要因、環境要因の用語を本時で使えるように確認する。 ○整った道路環境や交通法規を守って乗車している写真を提示して考えさせることで事故は未然に防げることを確認する。 ○事故の未然防止をした上で、さらに生じる危険を予測し回避するための学習であることを伝える。
課題解決	2 映像を見て危険予測し、回避方法を考える。 T: この後、どうなると思う。 C: 交差点から人や車が出てきて衝突する。 C: ブレーキの効きが悪いので、急に止まれない。 T: どうすれば良かったですか。 C: 一時停止して安全を確認すれば良かった。 3 状況が変わった場合について、さらに考える。 T: 最近、雨の日が多いので、この状況で雨が降り出したらどうしますか。 C1: 雨が降って来たら急いで帰ります。 T: 他にはないかな。○○さんはどうですか。 C2: 急いで帰るとあせっていたり、すべったりして危険だと思います。 T: では、○○さんだったらどうしますか。 C3: 迎えに来てもらいます。 T: ○○さんの通学路ではどうですか。 C4: 自力で帰らなければならない時は、いつも以上に周りを見て、安全に気をつけます。	32	◎写真の各場面をもとに、どんな危険が予測され、どんな回避策があるかを個人で考え、タブレットに書かせる。 ◇危険予測や回避理由を考え記述することができたか。(ワークシート) ◎タブレットを見ながら、自分の考えを発表させる。 ◇グループで自分の考えを発表しているか。(観察) ◎気象状況の変化や夜になり暗くなった状況などの変化に対する回避策を考えさせることで、様々な状況の変化に対応する危険予測の範囲を広げさせる。 ○事故を防ぐための対策についておさえる。
振り返り	4 本時のまとめをする。 危険を予測し、それぞれの要因に対して適切な対策を行えば、交通事故や事故による傷害を防ぐことができる。	8	○小テスト形式の穴埋め問題を解くことで知識に関する内容を確認する。 ○交通事故を防ぐ方法をまとめることができるように、友達の発表や板書されたキーワードを参考にして書くように助言する。

7 板書計画

<p>本時の課題</p> <p>交通事故を防ぐためには、どんな対策が必要だろうか。</p> <p>写真①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩道橋がある。 <p>写真②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車専用道路がある。 ・道路標識がある。 ・警告表示がある。 <p>人的要因</p> <p>環境要因</p> <p>車両要因</p> <p>○回避する方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピードを出しすぎない。 ・周りをよく見る。 ・1回降りる。 ・道を整備する ・ブレーキを点検する <p>まとめ</p> <p>危険を予測し、適切に対策を行えば、交通事故や事故による傷害を防ぐことができる。</p>
